



# 情報室だより VOL.23

大学進学研究会 札幌本部/学校法人クラスユニック 進学情報室

## 大学入試センター試験 平均点の変遷

	2012 最終集計	昨年比±	2011確定	2010確定	2009確定	2008確定
英語 (筆記)	124.15	1.37	122.78	118.14	115.02	125.26
英語 (リスニング)	24.55	-0.62	25.17	29.39	24.03	29.45
国語	117.95	6.66	111.29	107.62	115.46	121.64
数ⅠA	69.97	4.02	65.95	48.96	63.96	66.31
数ⅡB	51.16	-1.3	52.46	57.12	50.86	51.01
物理Ⅰ	68.03	3.95	64.08	54.01	63.55	64.55
化学Ⅰ	65.13	8.56	56.57	53.79	69.54	64.21
生物Ⅰ	64	0.64	63.36	69.7	55.85	57.64
地学Ⅰ	69.48	5.18	64.3	66.76	51.85	59.68
世界史B	60.93	-0.53	61.46	59.62	62.7	58.98
日本史B	67.92	3.81	64.11	61.51	57.94	64.27
地理B	62.16	-4.24	66.4	65.11	64.45	66.36
現代社会	52.1	-9.66	61.76	58.76	60.19	60.55
倫理	69.01	-0.41	69.42	68.66	71.51	67.58
政治経済	57.99	-0.98	58.97	59.16	69.31	63.73
倫理・政経	67.14	—	—	—	—	—
文系予想 (6-7)	570	4	566	551	555	576
理系予想 (5-7)	589	15	574	547	573	591

※文系・理系予想の数値は、ベネッセの公表数値である単純加重平均値に基づく数値を用いました。その他は大学入試センター公表数値による。

## 1、2012年大学入試センター試験の動向分析

左の一覧表は、去る1月14・15日に実施された2012年大学入試センター試験の平均点の最終確定数値です。一昨年までの2年連続の平均点の下降傾向から一転して、昨年に引き続き今度は2年連続でアップとなりました。まさに「制度改革の年の平均点の上昇」を地で行く形となりました。

地歴・公民と理科に改変があったことに伴う時間割の変更があったため、当初から危惧されていた通り、多くの報道されたような残念な混乱もありました。受験生の動揺も大きなものであったことと思います。

平均点目標は6割である中で、(55点～65点)の範囲に入ってきたのは、英語・国語・化学・生物・世界史・地理・政経の7科目。それより高い平均点であったのは数ⅠA・物理・地学・日本史・倫理・倫理政経の6科目。逆に下回ったのはリスニング・数ⅡB・現代社会の3科目。総じて文系6教科7科目で4ポイント、理系5教科7科目で15ポイントもアップしたと思われます。又、数ⅠAと国語がアップした関係で、今年も現役生にとっては出願しやすい年であったと思われますが、片や そのような状況の中でも「取れなかった生徒」は即死状態で、いわゆる「どこにも出せない生徒」も一部に散見されました。

各科目について個別に見ていくと、数ⅠAと数ⅡBの差が激しさを増してきました。リスニングの難易が難しい方向で固定してきた感があります。さらに、概ね平均点が揃った理科と地歴に比較して、公民では倫理と新設された「倫理・政経」が思ったよりも高い平均点でしたが、現代社会と政治経済の平均点の低さを思えば、今年は公民内での格差がやや感じられたところでした。

以上のような結果を受けて、平均点は昨年(2011年)のアップに重なる形でアップしているため、各受験生は模試段階でも経験したことのない自己最高点をたたき出してリサーチに臨んだものと思われます。当然、アップしたのは本人だけではないわけで、点数が上がった割には判定が今一つの状態であった生徒が多く、判定が悪くても諦めきれない生徒が多く居たかもしれません。

いずれにしても、大震災の影響もあり、センターに続く2次試験も含めて、今年の受験状況は従前とは異なる形で進行していく可能性があり、今後2次試験が終わり、その結果が出てすべてが終了した後、翌年以降のためにも、その動向に関して慎重に精査・分析がなされなければなりません。

## 2、道内国公立大学 系統別・大学別 動向分析概略(センター段階)

- 【医学部医学科】 センター段階では北大は志願者がやや増加(3.4倍)、札幌医大は昨年並み(6.6倍)ではあるが、共に難度に変化はなさそう。旭川医大に関しては、理科2選に変更されて受験しやすくなって 大きく志願者を増やしており(前期10.8倍)、相当難化しそうな勢いである。
- 【看護系】 北大では個別で生物ⅠⅡが必須となる変更があり、やや志願者減であるが難易では例年なみの76%前後か。前年に実質倍率が極端に低かった札幌医大では志願者増(3.1倍)となり74%前後。旭川医大は前期で志願者微減(3.6倍)を受けて68%程度、後期で増化傾向である。札幌市立大は昨年の難化傾向を受けて志願者減で74%程度。逆に名寄市立大は前後期で志願者減少(前期4.4倍・後期15.2倍)であるが、72%程度(前)、75%(後)程度。
- 【北大理系】 帯広畜産大との共同課程となる獣医学部は相変わらずの高難度(88%)。歯では志願者レベルとも昨年並み。水産は昨年比で志願者減(3.1倍)。総合理系は志願者増。概ね80%前後ではあるが、センター段階では総合科学が頭一つレベル的に高い。ただ、倍率的には数学重点(3.3倍)を筆頭にやや凹凸が出た感がある。医療技術系では、理学療法(3.5倍)・作業療法(3.9倍)が大幅倍率アップ、放射線(3.1倍)は微増、検査技術(3.2倍)微減で昨年なみの受験レベルか。
- 【帯広畜産大】 獣医では北大と共同課程となり志願者が一気に増加して前期で5.4倍、後期で8.4倍と跳ね上がってしまった。レベル的にも難化が予想されている。畜産科学はセンター段階では志願者増が見受けられたが、結果的には昨年並みの倍率(前期2.7倍・後期5.2倍)で推移した。
- 【室蘭工大】 全体としては、前後期とも志願者増加で難化傾向にある。倍率は建築社会基盤が前期2.5倍 後期4.5倍、機械航空が前期3.0倍 後期4.2倍、応用理化学が前期2.9倍 後期7.5倍、情報電子が前期2.4倍 後期3.9倍となっている。
- 【北見工大】 前期では、情報電気(2.0倍)を除いて、機械社会環境(3.5倍)・バイオ環境(4.1倍)ともに志願倍率をアップさせていて、難化しそう。2次のある後期も3系統とも志願倍率を伸ばしており、こちらも難化傾向になっている。
- 【公立はこだて未来大】 昨年の実質倍率が著しく低下した反動を受け、前期志願倍率が3.8倍と大きくアップして難化傾向となっている。後期は倍率は昨年並み(4.6倍)で昨年並みとなっており、前後期とも厳しい入試が予想される。
- 【小樽商大】 前期は倍率(3.0倍)・レベル共に昨年並みの受験となりそう。センターだけの後期についても当初予測に反して昨年とそれほど変化がない状況になっている。近年、北大の文系とのレベル差が次第に大きくなってきていて、前期北大・後期小樽という出願がしやすくなってきている。
- 【北海道教育大】 倍率的には、募集系統によりばらつきがあるが概ね昨年並みか。教員養成課程で見た場合のレベル的な目標目安として、札幌校70%強、旭川校(教育発達)65%程度、函館校(人間発達)64%前後、釧路校62%前後と思われる。
- 【札幌市立大】 看護は上述の通り。デザインは前後期とも志願倍率がアップ。(前期2.9倍・後期13.1倍)レベルは昨年並みか。
- 【釧路公立大】 経済・経営とも前期は大幅に志願者増で(経済9.1・経営9.2倍)、中期は昨年並み(経済9.2・経営10.6倍)。合格者の割増率の調整によってレベル的には安定しているの、前期65%強、中期67%程度を想定しておきたい。
- 【名寄市立大】 看護以外の前期では栄養が(3.5倍)で志願者増、社会福祉が激減(2.4倍)となっている。後期も同様で、栄養増加(17.0倍)社会福祉減少(11.8倍)であった。レベル的には前期栄養69%程度、前期社会福祉65%程度を目標としたい。

結果を出す。

クラスユニック